令和５年１１月１０日（金）
富山県公文書館　　細川　精樹

ふるさと富山の歴史裏話　第３回
「富山県の誕生と明治・大正期の富山」

１．明治維新期－ゆれうごく県境

1867 年（慶応 3）10 月 14 日　**大政奉還**
12 月 9 日　**王政復古の大号令**

1868 年（明治元）　**戊辰戦争**
金沢藩・富山藩とも新政府（薩長）側につき長岡藩と戦う（**北越戦争**）

1869 年（明治２）　**版籍奉還**　金沢藩主前田慶寧（よしやす）・富山藩主前田利同（としあつ）がそのまま知藩事に

1871 年（明治４）7 月　**廃藩置県**　３府 302 県
富山藩→富山県へ　金沢藩→金沢県へ　旧藩主は東京移住
11 月　**新川県**設置（新川、婦負、砺波 3 郡）　県庁は**魚津町**
※射水郡は七尾県に編入

1872 年（明治５）9 月　**射水郡**編入　越中全域を新川県に

1873 年（明治６）8 月　県庁を再び**富山町**へ

1876 年（明治９）4 月　新川県を廃し、石川県に併合**（大石川県）**

２．分県運動と富山県の設置

自由民権運動の高まり

1874 年（明治７）1 月　板垣退助ら、民撰議院設立の建白書を提出

1881 年（明治 14）　**国会開設の勅諭**
→自由党（板垣退助）、立憲改進党（大隈重信）結成
北立自由党　稲垣示
越中改進党　米沢紋三郎　島田孝之

紛糾する石川県会

1881 年（明治 14）　明治政府の緊縮財政→治水補助金の廃止
治水土木費の配分をめぐり、越中ｖｓ加賀・能登　激しく対立
・越中　　…河川の改修を主張（七大河川　急流で水害多発）
・加賀・能登…官公署の建築、道路の改修を主張

分県運動の展開

1881 年（明治 14）　**石埼謙**　元老院に分県建白書を提出
砺波郡林村出身

1882 年（明治 15）　**米沢紋三郎・入江直友**ら、上京し政府高官に分県の建白書を提出
入善の豪農　　旧富山藩士

※石川県は、明治政府により「難治県」と認識されていた。←石川県士族による
内務卿大久保利通暗殺等

富山県の設置

1883 年（明治 16）５月９日　太政官布告により、越中全域からなる**富山県**が成立
初代県令（のち県知事）**国重正文**（くにしげまさふみ）着任
７月 １日　県庁を富山（旧城址）に設置
８月 17 日　初の県会（現・県議会）

３．富山県の治水事業

庄川改修工事

初代県令**国重正文**　内務省の直轄工事 → 部分的工事で不十分
オランダ人技師**ムルデル**を招聘→五大河川等の調査
県の歳出に占める土木費の割合　３２％

常願寺川改修工事（1891～1893）

３代県知事**森山 茂**　政府に専門技師の派遣を要請→オランダ人技師**デ・レイケ**来県
デ・レイケの改修計画のもと施工
用水の合口化、堤防の補強、白岩川との分離、川幅の拡張
工費 105 万円（県予算の 3 倍以上）うち 95 万円は国庫補助

庄川改修工事

1896 年（明治 29）　大水害
1897 年（明治 30）　庄川沿岸住民ら「庄川改修期成同盟会」結成し、政府に陳情
1900 年（明治 33）～　内務省直轄の大規模改修工事開始
1921 年（大正 10）　庄川と小矢部川が分離（総工費 297 万円）

神通川改修工事

馳越（はせこし）線排水路工事（1901 年～1903 年）：湾曲した流れを直線化
旧河道の廃川地化→**県庁舎**（1935 年）本館は 2015 年　**国登録有形文化財**（建造物）に指定
電気ビル（1936 年）、ＮＨＫ放送局などが建てられ、富山市の中心部へ
1936 年（昭和 11）　**日満産業大博覧会**の開催

立山砂防工事

安政の大地震の鳶（とんび）山崩壊による土砂が豪雨時に流出
ムルデル、デ・レイケの指摘→**荒廃水源地の砂防**が根本的治水
県営砂防を 20 ヶ年継続事業として着手（1906 年～）
→1919 年（大正 8）、1922 年の水害で堰堤（えんてい）破壊
県だけでこの大事業を行うのは無理、直轄工事を要望

1926 年（大正 15）～　内務省直轄事業となる
1939 年（昭和 14）　立山カルデラ内に**白岩砂防堰堤**　完成
2009 年（平成 21）　国の**重要文化財**に指定

４．富山県の電気事業

農業用水を利用した発電

1897 年（明治 30）　富山電灯株式会社（現・北陸電力）の設立：密田孝吉・金岡又左衛門

1899 年（明治 32）　**大久保用水**を利用した**水力発電所**から富山市への送電に成功

水力発電による工業振興

1911 年（明治 44）　**庵谷第一発電所**完成　神通川を水源とする北陸初の大型水力発電所

1915 年（大正４）　**庵谷第二発電所**　建設に着手

第 14 代知事 **浜田恒之助**　「水力発電が産業発達の原動力に」

1916 年（大正５）　第 16 代知事 **井上孝哉**　**水力発電開発**の重要性を力説　**“転禍為福”**

1917 年～　日本鋼管（現 JFE ｽﾁｰﾙ）小矢部川右岸（新湊）に誘致←**浅野総一郎**の紹介

※伏木港周辺に臨海工業地帯が形成

1921 年（**大正 10**）**富山県は工業県へ**　工業生産額＞農業生産額

県営水力発電事業

1920 年（大正９）　第 17 代知事**東園基光**　**県営電気事業計画**を提唱

常願寺川水系の治水と発電による収益を目的に

富山県電気局が担当　資材運搬のため県営鉄道を敷設

常願寺川水系に**中地山・松ノ木・上滝** 3 発電所建設、黒部川水系も

1930 年（昭和５）　庄川小牧ダム完成　当時東洋一　**浅野総一郎**

1936 年（昭和 11）送電による収益 190 万円（県一般会計予算の８％）

※昭和初めの慢性的不況下、県が地域経済を支え工業振興を推進

民間の日本電力、日本海電気（現北陸電力）、庄川水力電気など躍進

※富山県=**「電源王国」**（1934・36・37 年度**水力総発電量全国１位**）

↓

富山県の重化学工業が進む…安価な電力料金を武器に

５．富山県の鉄道整備

北陸線の建設

1881 年（明治 14）　東北鉄道会社設立…前田利嗣（前田家当主）・前田利同（旧富山藩主）ら

→計画挫折

1888 年（明治 21）　北陸鉄道会社設立…島田孝之ら

→発起人間の意見不一致により挫折

1892 年（明治 25）　鉄道敷設法公布

→官設北陸線の建設

1898 年（明治 31）　高岡まで開通

1899 年（明治 32）　富山まで開通

1908 年（明治 41）　富山－魚津間開通→富山駅、田刈屋より牛島へ移転

1913 年（大正２）　青海－糸魚川間開通…富直線全通（北陸本線の全通）

→経済・文化についても関東圏とのつながり拡大

※富山県主催一府八県連合共進会の開催（9 月 1 日～　50 日間）

中越鉄道の建設

1893 年（明治 26）　吉田茂勝・島田孝之・大矢四郎兵衛らが出願
1895 年（明治 28）　中越鉄道株式会社が発足
1897 年（明治 30）　黒田－福野間開通
1898 年（明治 31）　高岡－城端間開通
1900 年（明治 33）　高岡－伏木間開通
1912 年（大正元）　氷見まで開通
1920 年（大正９）　国有化（城端線・氷見線）←鉄道国有法（1906 年）

その他の地域鉄道の開通

1913 年（大正２）　立山軽便鉄道（のち立山鉄道）（滑川－五百石間）
　富山電気軌道（→1920 年　富山市営軌道）
1914 年（大正３）　富山軽便鉄道（のち富山鉄道）（富山－笹津間）
1915 年（大正４）　砺波鉄道（のち加越鉄道）（青島町－福野間）
1921 年（大正 10）　富山県営鉄道（南富山－上滝間）
1922 年（大正 11）　黒部鉄道（三日市－下立間）
1924 年（大正 13）　富岩鉄道（富山口－岩瀬港間）
　越中電気軌道（のち越中鉄道）（富山北口－四方間）

1930 年（昭和５）　佐伯宗義、富山電気鉄道株式会社設立
→1943 年（昭和 18）　交通統合→富山地方鉄道株式会社が発足